

日本痛風・尿酸核酸学会 評議員会議事録

開催日時：2024年2月5日（月）13：00～14：00

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

久留理事長が議長となり、午後13：00に開催を宣言した。

審議に先立ち議長より本日の出席状況は下記の通りと報告された。

評議員47名 出席者27名 委任状提出者10名 欠席者10名

監事出席者1名 名誉会員出席者4名

続いて下記審議が行われた。

【第1号議案 2023年度決算・監査報告】細山田先生

細山田先生より配布された決算書に基づき2023年度決算内容の説明があった。貸借対照表の資産の部では資産合計が当年度1,456,111円減の63,027,342円。負債の部では負債合計が前年度より3,770,438円増の7,287,200円。正味財産合計は5,226,549円減の55,740,142円になったとの報告があった。正味財産増減計算書ではガイドライン印税が当年度4,345,486円減の364,168円、ガイドライン転載許諾料は当年度3,245,220円減の2,299,000円の収益となっている。今回対面にもどった第56回総会収入は当年度3,277,093円増の11,947,587円の収益だったが、経常収益は当年度4,539,023円減の20,647,002円であった。経常費用は、受取寄付金を原資とする若手研究者支援事業で1,179,282円と当年度496,452円増であった。今回対面に戻った総会費用は11,941,972円と当年度4,455,372円増となっている。以上より計上費用は前年比5,085,770円増の25,873,551円となった。また財産目録では正味財産が55,740,142円となり貸借対照表と一致している。さらに税理士の先生からの確認報告書も得ているとの説明があった。板倉監事、笹田監事、嶺尾監事より業務執行状況ならびに財産状況において適法であり各種計算書類は収支状況を正しく示しているものと認めますとの報告を受けているとのことであった。議長が議案1の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第2号議案 2024年度予算案】細山田先生

經常収益で若手研究者支援事業の原資となる受取寄付金は今年度も1,100,000円として計上している。特別賛助会費および正会員費は前年度同様に4,600,000円と計上している。經常費用は家賃が減額、またガイドラインの作成が始まるのでガイドライン費の増額、その他は前年度予算とほぼ同程度となっている。租税公課は2023年度の事業収入に対して計算された法人税840,000円を計上している。第57回学会総会収入および費用は収入が10,030,000円、費用が10,200,000円と試算している。以上より2024年度經常収益合計は19,390,000円、經常費用合計は21,890,000円となり計上増減額として、2,500,000円減ということで見込んでいるとの説明があった。議長が議案2の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第3号議案 第59回総会（2026年開催） 会長選出】 久留理事長
第59回（2026年開催）学会総会の会長候補者として福井大学血液・腫瘍内科教授山内高弘先生を推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。山内先生より「大変光栄な機会を賜りましてありがとうございます。諸先輩、諸先生がたのご教示もいただきながら頑張らせていただきます。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。」とのことであった。

【第4号議案ガイドライン改訂委員長の決定】 久留理事長
高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版の改訂がスタートするにあたり、委員長として、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座教授今田 恒夫 先生に決まったことが報告された。

【第5号議案 2023年度学会賞受賞者決定報告】 久留理事長
2023年度学会賞は、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座教授である今田恒夫先生に決定したことが報告された。

【第6号議案 2023年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告】 久留理事長
若手研究者賞は大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学講師 藏城雅文先生に決定した。また若手研究助成については、東京大学医学部附属病院薬剤部 届出研究員 豊田優先生、佐賀大学医学部循環器内科 特任教授 田中敦史先生、千葉大学大学院看護学研究院健康増進看護学講座 教授 大内基司先生、国際医療福祉大学薬学部薬学科 助教/東

京薬科大学病態生理学教室 大橋勇紀先生の4名の先生に決定したとの報告があった。

【第7号議案 第57回総会優秀演題賞候補演題決定報告】市田先生
市田先生より優秀演題賞候補として
「閉経と ABCG2 機能低下が女性の血清尿酸値上昇に及ぼす影響の検討」
三好 優香 先生（防衛医科大学校 衛生学公衆衛生学講座）
「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の重症化と血清尿酸値との関連」
高橋 康人 先生（東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科）
「リン酸化による URAT1 の制御機構の解明とメタボリックシンドローム
に合併する尿酸代謝異常への関与の検討」
藤井 航 先生（帝京大学医学部附属病院 腎臓内科）
「遊離アミノ酸プロファイルを用いた血清尿酸値の規定因子の探索」
大橋 勇紀 先生（国際医療福祉大学/東京薬科大学 病態生理学教室）
「入院患者の高尿酸血症を発症する因子の組み合わせに関する研究」
田澤 千明 先生（独立行政法人国立病院機構 米子医療センター
の5演題を選出したとの報告があった。

【第8号議案 2023年度優秀論文賞受賞者決定】市田先生
編集委員会で審査をした結果、最優秀論文賞に該当する方はいなかった。
優秀論文賞に東北大学の小川亜希子先生の「COVID-19 ワクチン接種後の
RNA 修飾代謝物排泄の変動」、山形大学の鈴木奈都子先生の「地域住民に
おける血清尿酸値と食品群別摂取量の関連について：山形県コホート研
究」、両国東口クリニックの藤森新先生の「新型コロナウイルスワクチン
接種と痛風発作（痛風専門医療機関でのアンケート調査）に決定したとの
報告があった。

【第9号議案 編集委員会報告】市田先生
2023年度 J-Stage アクセス数は月平均 25,414 アクセスで、昨年は 24,500
アクセスなので比較してもほぼ横ばいである。2023年度学会誌の掲載論
文数は、総説5編、原著9編、計14編であり、前年は12編ということで
ここ数年このくらいの数字で掲載できているので順調だと思う。バックグ
ランドとしては学会総会で発表された演題から推薦演題を選び、論文化に
持っていくという流れがほぼ定着されてきていることがある。投稿規定に
ついては、プレプリントの可否の問い合わせや、物質の構造式の明記など
対応事項が出てきたため、これを機に全体的な見直しを行っている。

また「痛風と尿酸・核酸」優秀論文賞選考内規の変更で、総会での授賞式にて賞状や副賞を総会長から授与することになっているが、これを実際には編集委員長が行っていたため、編集委員長から授与とした。また現在副賞として最優秀論文賞に 20 万円、優秀論文賞に 10 万円贈呈していたが、学会賞が 10 万円なのに対してバランスが取れないとの意見があり、今後の投稿受付分からは、最優秀論文賞に 10 万円、優秀論文賞に 5 万円としたことが報告された。

【第 10 号議案 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告】谷口先生（動画報告より）

昨年 3 月 25 日～4 月 24 日にオンデマンド形式で教育研修会を行い 38 名の参加者があった。益田先生、福内先生、(谷口先生) にご講演いただいた。認定痛風医試験については申込者がなく実施しなかった。認定痛風医新規申請 2 名、更新書類審査 10 名について委員で審査をしたところ当委員会としては資格を満たしているということを確認している。今年 3 月 25 日～4 月 24 日にかけて教育研修会を予定しており桑原先生、蔵城先生、今田先生にご講演をお願いし、ご快諾いただいている。会計報告については収入が 252,000 円、支出が 78,760 円であったとの報告があった。利益相反委員会からは報告なし。久留理事長より理事会でも認定痛風医に関しては承認を得ているとの報告があった。

【第 11 号議案 ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況を含む】市田先生

ガイドライン中国版が 2023 年 9 月に天津科技翻訳出版公司から出版された。天津科技翻訳出版公司の HP からたどりつける。金額は 68 円でネット書店の京東 mall で購入可能（登録が必要）。3,000 部を超えた分は契約に従ってロイヤリティが発生し、当学会が受け取れる前払い印税として 112,504 円は 2022 年度にすでに入金があった。ただし翻訳の準備の際に 800,000 円を支払っているため、マイナス 700,000 円からのスタートであるが、何とかマイナス分を減らし、可能であればプラスにしたい。中国語版の販売促進の方法については、エーザイがドチヌラドを販売することになり久留先生がその講演会の講師になったので、そこで宣伝していただくこと、また先日お送りしたメールマガジンにも購入先など書いてあるので、中国の先生で知り合いがいたらアナウンスしていただきたい。さらに台湾や中国の先生がいらっしゃればその先生方にも販売促進のお手伝いをお願いできればというふうに思っているとのことであった。

2019年に中国で痛風のガイドラインが出版されているようだという情報があり調べたところ、日本のガイドラインのように1冊ですべてが載っているようなものではなく、診療科別（高尿酸血症・痛風では内分泌分野）に書かれたようなものであるとの報告があった。

【第12号議案 ダイバーシティ推進委員会報告】金子先生

年に2回委員会活動を行っている。昨年の第1回委員会の内容は第56回学会総会前の打合せで、ニーズ調査アンケートの実施方法や、託児室の希望がどのくらいあるか、シンポジウムの状況、総会出席により取得できる単位認定が増えたことなどが確認された。また3名の委員の追加を理事会に諮るということを進めてきた。第2回委員会では新委員の3名の先生（嶋田英敬先生、横関美枝子先生、高柳ふくえ先生）を交えて、昨年の第56回総会の振り返りを行った。ニーズ調査アンケート（結果は会員ホームページに掲載）では、会員49名、非会員23名 計72名（会員：約半数が11回以上、非会員：67%が初めて）から回答を得た。会員には特別講演、多職種連携シンポジウムが好評で、非会員にはランチオンセミナーが好評であった。開催形式はハイブリッド形式の希望の声が多かった（55-60%）。現地参加が難しいという回答の理由としては介護や育児、勤務体制（土日開催やオンライン希望）などがあった。また費用の関係で参加が難しいとの意見もあり継続参加の方に参加費の減額や学会から補助があるとありがたいといった意見もあった。今後の企画や要望で、海外の先生の講演を聞きたい、基礎と臨床の橋渡し、中高生向けのセミナー、多職種シンポジウムの継続、ハンズオンセミナーの実施、食事療法・運動療法についての実演などが意見として出た。これに関しては次回、次々回総会の会長にすでに伝えている状況。海外の研究の講演をオンラインで聞きたいという要望に対しては第57回総会会長の荻野先生に実現していただいている。前回の総会で初めて託児室を設けた。初めての試みでアルファコーポレーションにお願いし、三橋さん、中山先生、プロコムとの協力で1日目には3名、2日目には1名のお子様の申し込みがあった。かなり広い場所で、託児に慣れた保育士2～3名が来てくれて非常に良い感じに運営されていた。現在第57回総会ではまだ申し込みはないが受け付け中である。先日今年度の第1回の委員会を行った。第57回総会もニーズ調査アンケートを実施する、第58回総会でのシンポジウムは「働き方改革」をテーマとして取り上げることが確認された。

また男女共同参画学会協会連絡会について、加入したときはオブザーバー会員だったが、規約で3年続けると正式加盟となる。分担金もオブザーバー会員のころと変わらず1万円で、さらに学会の裾野を広げるためにも正式加盟会員として継続することが報告された。

【第13号議案 若手委員会報告】 桑原先生

現在3年目の状況。追加メンバーもあり現在17名で活動している。次回から慈恵医科大学循環器内科 田中祥朗先生、大阪大学大学院 内分泌・代謝内科学 川知祐介先生の2名がオブザーバーとして参加を予定しており多くの方々に参加いただいている。今年度の活動報告としては、2か月に1回程度全体会議を開催した。内容として、新しくメンバーになった先生に研究内容を発表していただいたり、今年の総会のシンポジウムの内容を検討したり、そのシンポジウムの内容について各先生方にレビューを論文化していただき、それをまとめて投稿し、Biomolecules にアクセプトされ出版されたという状況。関連学会におけるジョイントシンポジウムの企画・提案としては、昨年3月に行われた日本循環器学会学術集会でジョイントシンポジウムを会長企画のシンポジウムとして実施することができた。座長を久留先生、土橋先生にさせていただき、金子先生、(桑原先生)、荻野先生、阿部先生に発表をしていただいた。会場は立ち見も出るほど大盛況で尿酸の大切さを循環器の先生方にわかっていただいたと思う。また12月に第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会で共催ミニシンポジウムを行った。田中先生、大谷先生が座長で若手委員会から宮田先生、明石先生、丸橋先生、藏城先生の4名の先生が演者として発表した。こちらも盛況であったと報告を受けている。

若手委員会を中心に作成した Biomolecules に掲載しているレビュー論文の内容を担当に分けて総会のシンポジウムで発表する予定で、尿酸に関する最近のアップデートを一度に学べるようになっている。また総会の2日目の朝に、会場にて若手委員会をオープンな形で開催予定であり、どのような活動を行っているのか自由に見学してもらおうと思っている。次年度の目標については資料の通り。引き続き皆様のご支援をいただきながら積極的に活動を行っていききたいと思う。

【第14号議案 学術交流委員会報告】 山内先生

この学術交流委員会は2023年6月に発足した委員会でガイドラインの他学会とのすり合わせや、学会同士の合同シンポジウム等の交流を通じ尿酸のプレゼンスを向上させることを目的としている。現在まで3回の委

員会が開かれている。日本血液学会は尿酸との関係が少し薄いので難しいが、2026年日本臨床薬理学会総会の会長に任命されたので、そこで痛風・尿酸のセッションを作れないか検討している。阿部委員からは、日本肺高血圧・肺循環学会のプログラム委員会にて検討していただいている。藏城委員には昨年すでに日本医学会連合 TEAM 事業・日本肥満学会・日本肥満症治療学会 合同企画シンポジウム学術集会で発表。また第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会でも発表いただいている。桑原委員からは日本循環器学会は規模が大きいので定期的な共催シンポジウムの開催は難しいかもしれないが、2025年3月の学術集会の教育セッションで尿酸の話題を入れてもらえるように検討をお願いしていただいている。柴田委員からは日本腎臓学会で今後腎臓学会東部会や総会等での合同シンポジウムの提案をしていただいている。土橋委員からは日本高血圧学会はもともと他学会とのシンポジウム枠が確保されているので、その1つを頂いて今後相互シンポジウムの定例化を目指していただいている。森崎委員からは今後日本人類遺伝学会の理事会で検討していただいている。日本尿路結石学会、日本泌尿器科学会担当の山口委員からは、なかなか「尿酸」というテーマが入りにくいかもしれないが、尿酸につながるテーマで発表ができるか検討していただいている。山本委員からは日本心不全学会で2025年に学術集会の会長をするのでそこで尿酸をテーマとしてセッションを設けられるか検討していただいているとの報告があった。久留理事長より今後も山内先生にリーダーシップをとっていただき、学術交流員会を発展させてくださいとのことであった。

【第15号議案 ありかた委員会報告】久留理事長

1. ガイドライン第4版改訂委員会発足について

高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン改訂第4版の委員長について山形大学の今田恒夫先生に決まったので、作成のプロセスに入らせていただきたいと思っているとのことであった。

2. キサンチン尿症のアンケートについて

藏城先生より学会に協力をいただきながらキサンチン尿症のアンケート調査を行いたいという依頼があった。目的は腎性ではない低尿酸血症患者（キサンチン尿症/モリブデンコファクター欠損症）における国内での病態について調べていくこと。臨床研究なので倫理審査が必要であるが当学会には倫理審査委員会がないので、藏城先生が所属している大阪公

立大学で行い、研究（アンケート）については学会として協力していくことがありかた委員会で決まったとの報告があった。

3. 学会の倫理審査委員会について

ありかた委員会で今後学会に倫理審査委員会を設置するかどうかについて審議をした。構成要件として医学・医療の専門家、倫理学や法律の専門家、一般の立場の方、男女両性などが条件に入ってきており、学会として倫理審査委員会を作ることは、なかなか難しいのではないかという意見が出た。1つの案として、この学会では研究者の関連する施設の倫理審査委員会を通すという形で、学会としてサポートするというのはいかがでしょうかとの意見が出た。今後のありかた委員会での継続審議にしていくとのことであった。

4. 生活習慣病関連9臨床団体に関して

生活習慣病関連9臨床団体という団体がある。本団体は、日本糖尿病学会、日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、日本腎臓学会、日本医療情報学会、日本臨床検査医学会の6学会が中心となり、2021年に日本肥満学会、日本糖尿病協会が加入、2022年に日本糖尿病眼学会が加入し9団体となっている。臨床研究を行うにあたり、色々なパラメーターが入ってくるが、「尿酸」が重要項目に入っていない。今後大型の臨床研究をするにあたって、「尿酸」が測定されていないデータがあると、研究するのに支障が出てくるのではないかという見解があり、できればこの団体に加盟できるに、資料に書かれている関連委員の先生についてご存じの方がいれば、ロビー活動を行ってほしいとのことであった。

【第16号議案 庶務幹事報告】細山田先生

学会のHPのアクセス数は月平均2,500アクセスとなっており前年度の3700アクセスに比べて2/3に減っている、昨年はJ-Stageの1/7であったが、今年は1/10であった。会員数540名で前年度に比べて9名減少。会費未納者は74名となっているとの報告があった。

【第17号議案 役員改選】久留理事長

(i) 理事の改選

任期満了による退任3名 寺井千尋理事、森脇優司理事、山田裕一理事
新規選任3名 高田龍平評議員、仲川孝彦評議員、松尾洋孝評議員

(ii) 評議員の改選

任期満了による退任 4 名 栗山哲評議員、高橋澄夫評議員、長瀬満夫評議員
嶺尾郁夫評議員

本人からの辞退 4 名 石坂信和評議員、市川奈緒美評議員、岩崎博道評議員
玉井郁巳評議員

新規選任 6 名 有馬久富先生、岡田随象先生、小島淳先生、
菅野直希先生、山本康孝先生、横尾隆先生

(iii) 監事の改選

任期満了による退任 2 名 板倉光夫監事、笹田昌孝監事

新規選任 1 名 内田俊也先生

(IV) 名誉会員の承認

寺井千尋理事、嶺尾郁夫評議員（監事）、森脇優司理事、山田裕一理事

(V) 編集委員長の改選

新規選任 1 名 山内高弘先生

(V) 編集委員長の改選

新規選任 1 名 森田美穂子先生

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同により承認された。

【第 18 号議案 その他】久留理事長

2 月 29 日から鳥取にて対面で総会があるので、そこでご意見等あれば聞かせてほしいとのことであった。

以上で理事会の審議はすべて終了し、議長は 14 時 00 分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

2024 年 3 月 11 日

理事長 久留 一郎

監 事 板倉 光夫